

# 第36期営業のご報告

[平成14年4月1日～平成15年3月31日]



# Systemex

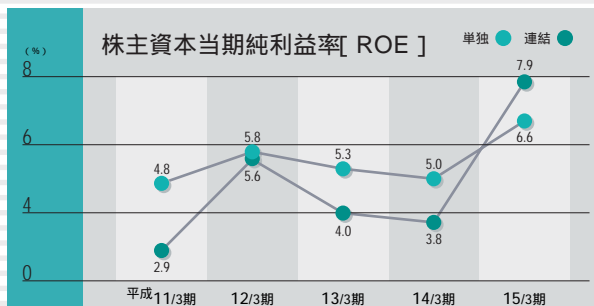
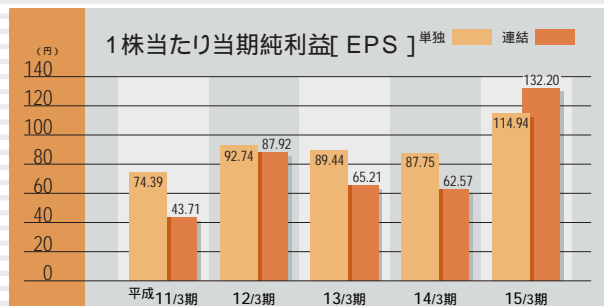
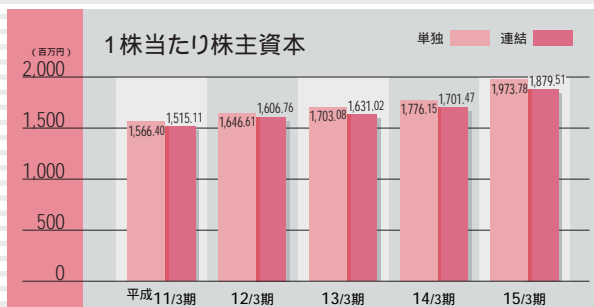
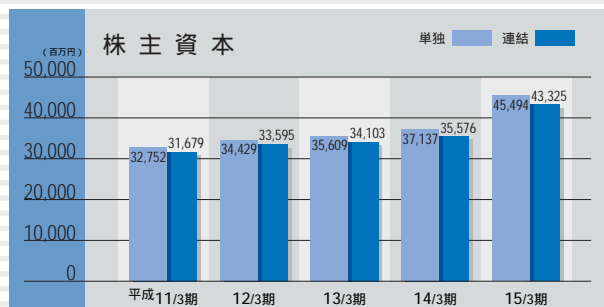
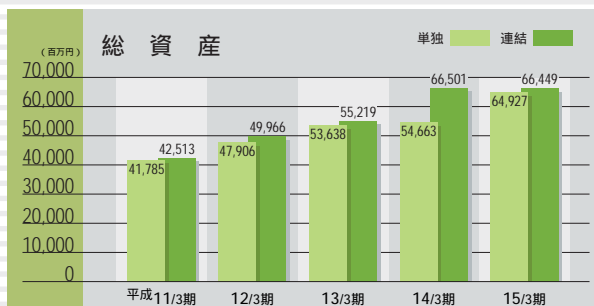
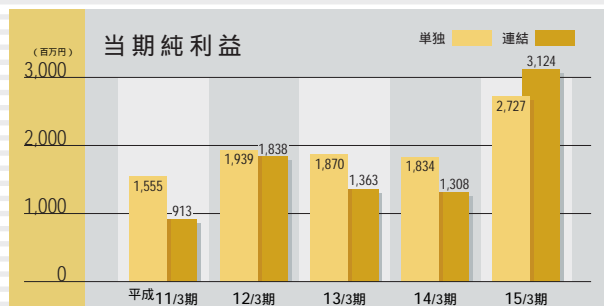
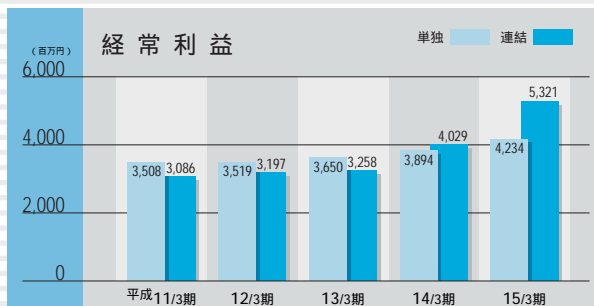
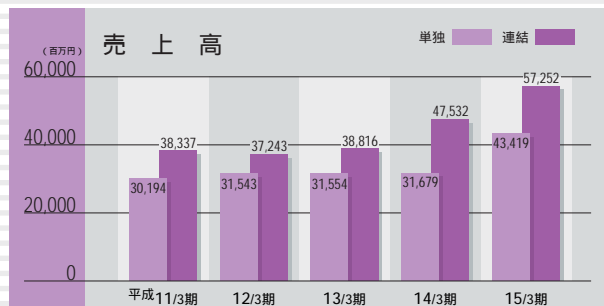


シスメックス株式会社

証券コード 6869

# FINANCIAL DATA

## 業績の推移



## グループの変革スピードを上げてグローバルニッチ カンパニーを目指す。

日頃は、株主の皆さま方からのご支援、ご指導をいただき、心から感謝しております。

第36期は売上・利益ともに過去最高を達成することができました。

また、2005年に向けてシスメックスグループ中期経営計画を策定し、

グループの総合力をもって、さらに豊かな健康社会づくりに貢献していく所存であります。

ここに第36期連結の業績をご報告するとともに、今後の事業戦略について説明させていただきます。



### 第36期の業績と事業展開のご報告

まず最初に、今期の業績はいかがでしたか。

今期は、平成14年4月に株式交換によって国際試薬を完全子会社化しました。グループ全体の事業構造の再構築に取り組み、検体検査機器・試薬・IT・サービス&サポートを組み合わせた、臨床検査におけるトータルソリューションを提供し、多様化する顧客ニーズへの対応に努めました。その結果、国内、海外ともに売上が順調に推移し、円安効果もあり、連結売上高は57,252百万円(前期比20.4%増)となりました。また、利益面においては、成長が期待されるライフサイエンスへの研究開発投資を積極的に進める一方で、国際試薬との統合による重複コストの削減など、販売費及び一般管理費の抑制に努めた結果、増収効果に加えてさらに円安も寄与し、

(注)文中における数値はすべて連結での値です。



経常利益は5,321百万円(前期比32.1%増)となりました。また、当期純利益は国際試薬の有償減資により法人税などが減少し、3,124百万円(前期比138.8%増)の大幅な増益となり、売上・利益ともに過去最高を達成しました。

国内市場における業績はいかがでしたか。

国内では、抜本的な医療制度改革の進行や、診療報酬・薬価の引き下げ、老人医療費負担の見直しなど、市場環境が厳しさを増しています。そのなかで、国際試薬との統合による販売・サービス力の強化、品揃えの拡充、機器設置台数増加にともなう検査試薬の販売増などにより、対前期比で大幅な増収となり、売上高は30,452百万円(前期比23.7%増)を達成しました。

(注)国際試薬の完全子会社化により、前期は下期のみの加算でしたが、今期は全額加算されています。

海外での業績についてお聞かせください。

まず、米州市場においては、血液分析装置の売上が好調に推移し、装置の設置台数が増加した結

果、試薬の売上も順調に推移しました。また、血液凝固測定装置、尿検査装置の販売も順調に推移し、IT分野においても売上が増加しました。さらに、円安効果もあり、売上高は6,376百万円(前期比11.9%増)となりました。

一方、欧州市場では、ITを核とした提案を推進した効果があり、血液分析装置、血液凝固測定装置の売上が好調に推移し、検体検査装置の設置台数が増加した結果、試薬の売上も順調に推移しました。大幅な円安効果も影響し、売上高は14,548百万円(前期比20.3%増)となりました。

アジアパシフィック市場では、中国における血液分析装置、試薬の売上が増加しました。また、前期末より連結子会社となった、シスメックス デルフイック社(ニュージーランド)のIT分野における売上が加算され、売上高は5,875百万円(前期比14.9%増)となりました。

## 新たなステージに向けて、 グループ中期経営計画を策定

今回、グループ中期経営計画を発表されました。その内容をお聞かせください。

私たちシスメックスグループは2001年に長期ビジョンとして、「A Unique & Global Niche Company」を掲げ、特長のあるグローバル企業として、先進のテクノロジーと独自の強みを活かしたソリューション

を顧客に提供することにより、ヘルスケアテストイングにおける当社の強みを活かせる領域において、リーディングカンパニーとなることを目指しています。

今回策定した中期経営計画では、グループの変革スピードを高め、新たな価値を生み出し、持続的な成長の実現を目指し、2005年度(2006年3月期)の数値目標を、売上800億円、経常利益90億円、ROE8.0%としました。また、同時に当社が目指す2005年のポジショニングを設定しました。

2005年のポジショニングについて具体的にお聞かせください。

今回、2005年の目指す姿として3つのポジショニングを設定しました。

そのひとつは、検体検査分野で、今後のビジネスモデルとして当社が提唱している、機器・試薬・IT・サービス&サポートを効果的に組み合わせたトータルソリューションのリーディングカンパニーになることです。高齢化の進展、医療技術の革新、患者の医療に対する意識の変化など市場環境が変化し、お客様のニーズが多様化してくる中で、お客様の問題解決に貢献するためには、トータルソリューションを基軸とした事業展開が益々重要になってきます。私たちは、機器・試薬・IT・サービス&サポート、更にファイナンスを併せ持つオンリーワンカンパニーとして、トータルソリューションに必要な商品開発への重点投資やアライアンス等による商品系列の拡充、サービス&サポートコンテンツを一層充実させ、世界各地の

お客様のニーズに応じた提案力の強化を図っていきます。

二つ目には、検体検査分野でわが国を含めたアジア地域において、リーディングカンパニーになることです。今後、日本では医療制度改革が本格化し、医療における効率化と質の向上が求められてきます。私たちは、国際試薬との統合で強化された国内No.1の販売・サービス力を活かし、自社開発およびアライアンス等による商品系列の拡充、ITを活用したトータルソリューションプロバイダーとしてお客様の抱える問題解決に貢献することを目指していきます。また、経済成長により今後の市場拡大が期待できるアジア市場の中で、特に中国では、経済水準の向上に伴い、医療環境の整備が急ピッチで進み、近年では医療の質の向上を目指した環境整備も進められています。私たちは既に中国での販売・サービスネットワークの整備を完了し、血球計数分野・血液凝固分野および尿分野での事業展開を進めており、本年3月からは生化学分野への参入も進めて



きています。今後は免疫分野への新規参入やIT商品を充実させるとともに、従来から行っている検査結果の正確性をチェックする精度管理への啓蒙や学術活動を更に進めることにより、ブランドイメージを向上させ、お客様への総合提案力を強化していきます。

三つ目のポジショニングは、ポストゲノム技術を活かし、がんなどの確定診断領域において、Tech-richカンパニー<sup>(注)</sup>になることです。技術革新により新たな検査が登場し、新規市場の形成が期待されている中で、私たちは中央研究所を中心に積極的な研究開発を進めています。国際試薬との統合による試薬開発技術力の融合、大学や他社との共同研究・開発を推進することで、新しい分野の商品を継続的に供給できる技術基盤を強化していきます。また、既存分野においても、商品力拡大に向けた画像解析技術等の要素開発技術力の強化を進め、コアテクノロジーの拡充を図っていきます。

(注) Tech-richカンパニー: 技術で優れているという評価を得ている企業

その他、重要課題について、お聞かせください。

世界最大の市場である米国での直接販売・サービスを開始します。米国では、これまでアライアンスを軸とした間接販売・サービスにて事業展開を進めてきましたが、最近の米国における検査技師不足による自動化・IT化ニーズの高まりに対応するとともに、血球計数分野でのグローバルNo.1を達成するために、直接販売・サービス体制の構築、現地子

会社の統合を柱とした米国事業体制の再構築を行います。世界最大の市場でお客様との接点をもつことで、新製品開発へのニーズの反映も可能となり、真のグローバル企業として、新体制のもと、お客様のニーズに応じた専門性の高いソリューションをお届けしてまいります。

● ● ●

当社は、本年2月に創立35周年を迎え、株主の皆さまの日頃のご支援に感謝し、創立35周年記念配当3円を加え、年間配当を25円としました。

今後も、今回策定した「中期経営計画」をシスメックグループの総力をあげて推進し、株主の皆さまや投資家の方々のご期待にお応えできるよう努力を重ねてまいります。より一層のご支援をよろしくお願いいたします。



代表取締役社長

家次 恒

## テーラーメイド医療の確立に向け、 抗がん剤の効果診断に関する 臨床試験を スタート。

がん分野、全米No.1の  
テキサス大学MDアンダーソン  
がんセンターとの  
共同研究開発契約を締結



MDアンダーソンがんセンターは、高い研究レベルと優れた臨床評価を通じ、がん治療の世界的権威としての地位を確立。現在使用されているがん治療法の多くは同センターが創出したものです。

シスメックスは、患者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に向けて、さまざまな研究開発に取り組んでいます。中央研究所では、特にがんの新規診断法の研究開発について注力しており、すでに、「がんのリンパ節転移の迅速診断技術の開発」（2002年5月）、「子宮頸がんの自動検査システムの開発を開始」（2002年11月）を発表しています。

今回、テーラーメイド医療を推進する上で注目されている、抗がん剤の効果予測に関する診断法の臨床試験を開始するため、がん分野で全米No.1の施設である「テキサス大学MDアンダーソンがんセンター」との共同研究開発契約を締結しました。

抗がん剤の効果診断法とは、抗がん剤を投与する前に、患者により効果的な薬剤を選定することを目的としています。一般的に抗がん剤は副作用が強く、奏効率も決して高くありません。医療の現場では、抗がん剤を使用する前に、その患者に有効な抗がん剤の選定が強く望まれています。今回の共同研究は、術前・術後に補助療法として行われる、抗がん剤による化学療法の最適化に貢献することを目指しています。患者のがん細胞にあるタンパク情報を診断する効果診断法が確立すると、テーラーメイド医療の実現に向けた個人個人への最適な投与が可能となり、患者のQOLの向上が図れます。

今後は、MDアンダーソンがんセンターとの共同研究開発により、信頼性の高い臨床評価を経て、抗がん剤の効果診断法を早期確立し、診断装置・試薬の開発を目指します。

2002

- 4 国際試薬(株)を100%子会社化  
新製品「多項目自動血球分析装置 XT-2000i」「血球分析装置用アップグレードソフトウェア XE Proシリーズ」を発売  
慶應義塾大学医学部と血液細胞の遠隔画像診断における共同研究を開始  
POCに関する専門のWebサイトを開設
- 5 がん転移を15分以内に検出できる遺伝子検査技術を開発
- 6 新製品「臨床検査情報システム MOLIS」を発売  
臨床検査におけるネットワークサービス SNCS の凝固製品への対応を開始
- 7 インドネシアに現地法人を設立し、営業を開始  
栄研化学(株)と尿検査分析装置および尿検査用試験紙の中国における販売契約を締結
- 9 機器生産の拠点「加古川工場」の増改築工事が完了  
新製品「全自動微生物測定装置 BACTANA」の開発が完了  
マラソンランナー谷川真理さんと ASTRIM に関するアドバイザースタッフ契約を締結
- 11 デイドベリング社との血液凝固関連製品の販売提携契約を更新  
子宮頸がん検出方法の全世界的な独占使用権を獲得
- 12 **新製品「末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU」を発売**

2003

- 1 **臨床検査におけるネットワークサービス SNCS の海外展開を開始**
- 2 **新製品「HCV(C型肝炎)検査用試薬 ランリームHCV EX」を発売** P8
- 3 **中国における生化学検査用試薬の製造・販売を開始**
- 4 **採血が不要な微侵襲血糖自己測定技術を東芝と共同開発** P10  
バイエル社と米国における尿製品に関する販売代理店契約を締結
- 5 **新製品「HTLV- 抗体検査用試薬 ランリームHTLV-」を発売** P8  
**がん分野で全米No.1のテキサス大学MDアンダーソンがんセンターと抗がん剤の診断法の共同研究開発契約を締結** P5  
ロシュ社と分子診断および微侵襲・無侵襲技術の共同開発契約を締結  
パイオ・ラッド社との日本における、糖尿病検査製品の販売契約を締結



ASTRIM のニューモデル、コンパクトで汎用性の高い ASTRIM SU が新登場。

1999年、当社が世界で初めて開発した、採血することなくヘモグロビン濃度が測定できる「末梢血管モニタリング装置 ASTRIM(アストリム)」。発売以来、スポーツ分野や健康食品などの機能性食品分野で、新たな市場を形成してきました。

今回発売のASTRIM SUは、当社独自の測定原理を継承し、さらにコンパクト化、汎用性の向上、コストの軽減を可能にした新製品です。測定部とデータ解析部を分離し、データ解析にはノートパソコンを採用しました。



また、測定部のバッテリー機能を強化し、いつでもどこでも、簡単に測定できます。健康への関心がますます高まる中、無侵襲ヘモグロビン測定技術を医療分野に活かせるよう医療用具申請を進めています。採血が不要という最大のメリットを活かし、検診市場等への拡大を目指します。

中国における生化学検査用試薬の製造・販売を開始。

当社は、中国を今後高成長が期待できる市場と位置づけ、早くから拠点の整備、品揃えの充実を進めてきました。そして今回、中国において糖尿病・肝機能・腎機能などの生化学検査を行うための試薬23項目の製造認可を取得しました。当社は国際試薬(株)を完全子会社化したことによるシナジー効果を最大限に発揮することで、高品質で低価格の試薬をグローバルにお届けしていきます。また、中国、アジアにおけるサービス&サポート体制の強化、充実を含め、トータルソリューションプロバイダーとして他社との差別化を図っていきます。

今後は、試薬の項目拡大を進めるとともに、学術情報の提供やさらなるサービス&サポート体制の充実を図り、中国を含めたアジア各地に向けた生化学試薬供給体制を構築し、アジアにおける検体検査分野のリーディングカンパニーを目指します。

臨床検査におけるネットワークサービス、SNCS の欧州市場への導入をスタート。

SNCS(シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システムズ)は、お客さまの製品とコールセンターをオンラインで結び、装置のリモートメンテナンスや精度管理を行う最新のネットワークサポート商品です。装置のダウンタイムを最小限に抑えるなど、日本市場でお客さまから高い評価を得ています。

今回はSNCSのグローバル展開を図るため、サポート体制の整備が進んでいる欧州市場への導入を開始しました。今後もSNCSを21世紀型のサービス&サポート商品と位置付け、安心してご使用いただける検査室の環境づくりを目指すとともに、お客さまの多様なニーズにお応えするため、機器・試薬・IT・サービス&サポートを効果的に組み合わせたトータルソリューションをグローバルにお届けしていきます。

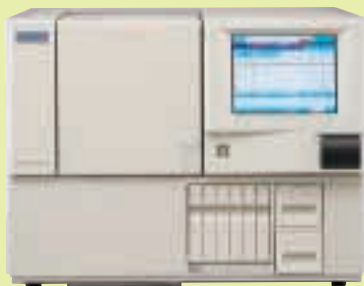
## 世界初、当社独自の“全血測定”技術で、 検査測定時間の大幅な短縮を実現しました。

緊急性の高い主要感染症4項目を20分以内で同時測定

C型肝炎の検査時間を大幅に短縮する、  
検査用試薬 ランリームHCV EX を発売。

現在日本にはC型肝炎の感染者が約200万人いるとされており、今後の大きな医療課題のひとつとして国家レベルでの取り組みが行われています。当社では、緊急性の高い感染症項目の迅速な検査を行う「免疫凝集測定装置 PAMIA-40i」と全血測定可能な2種の試薬を市場導入してきました。

今回発売の「HCV(C型肝炎)検査用試薬 ランリームHCV EX」は、PAMIA-40iと組み合わせた全血測定により、採血から結果報告までの時間を従来に比べて、約1/3(20分以内)の短縮化を実現しました。



PAMIA-40i

「全血測定」とは...

従来の検査方法である(1)採血 (2)血液凝固 (3)遠心・血清分離 (4)測定 (5)結果出力という手順に対し、当社独自の技術により(2)(3)のプロセスを省略。採血した血液がそのまま測定できる検査方法です。

成人T細胞白血病などの検査時間の短縮化を実現する、抗体検査用試薬 ランリームHTLV- を発売。

HTLV-Ⅰ(ヒトT細胞白血病ウイルス1型)の迅速な検査を可能にする、当社独自の全血測定技術を用いた「抗体検査用試薬 ランリームHTLV-Ⅰ」を発売しました。当社の「免疫凝集測定装置 PAMIA-40i」と使用することにより、採血から結果報告まで約17分と従来の1/3に短縮することができます。HTLV-Ⅰは成人T細胞白血病や脊髄老成麻痺の原因となるウイルスで、全血による抗体測定は世界初であり、緊急検査や妊婦検診でのスピーディな検査結果報告が可能になります。

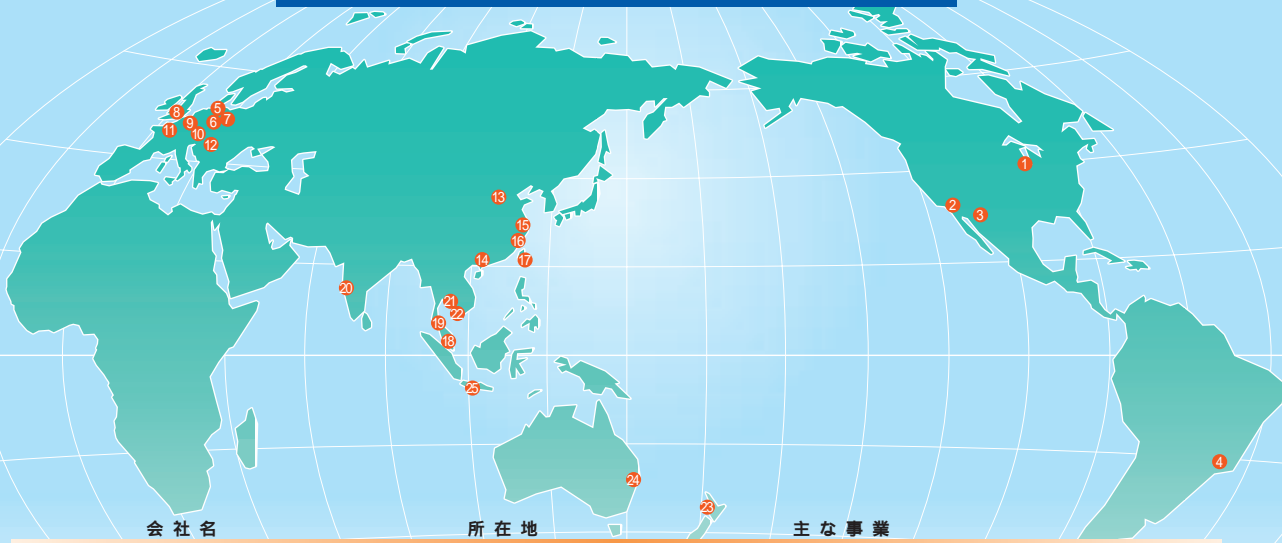


ランリーム HTLV-Ⅰ

すでに市場導入している「B型肝炎検査試薬」「梅毒検査試薬」と合わせて、感染症の主要4項目の全血検査が可能になります。また、これら4項目を20分以内で同時に、結果報告することが可能な試薬と測定装置をもつのは、現在当社のみです。

今後も当社独自の技術で、全血測定ができる検査項目の拡大を図り、アジアをはじめとした世界市場への展開を推進します。

# 連結子会社および関連会社



会社名	所在地	主な事業
国際試薬株式会社	日本	検体検査試薬の開発及び製造
メディカ株式会社	日本	検体検査機器及び関連資材の製造、販売
トーアメディカル株式会社	日本	検体検査機器及び事務機器等のリース
シスメックス物流株式会社	日本	検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送
株式会社アール・エー・システムズ	日本	産業用計測・検査装置の開発、製造及び販売
① SYSMEX CORPORATION OF AMERICA	米国	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
② SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.	米国	検体検査試薬の製造及び販売
③ SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.	米国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
④ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.	ブラジル	検体検査試薬の製造及び販売
⑤ SYSMEX EUROPE GMBH	ドイツ	検体検査機器の販売及び代理店サポート / 検体検査試薬の製造及び販売
⑥ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH	ドイツ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑦ WELLTEC GMBH	ドイツ	一般個人向け食品健康情報の検査、提供
⑧ SYSMEX UK LIMITED	英国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑨ SYSMEX BELGIUM S.A.	ベルギー	SYSMEX MOLIS S.A.の持株会社
⑩ SYSMEX MOLIS S.A.	ベルギー	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑪ SYSMEX FRANCE S.A.R.L.	フランス	臨床検査情報システム用ソフトウェアの販売 / 検体検査機器、検体検査試薬の代理店サポート
⑫ SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.	スロバキア	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発・サポート
⑬ 済南希森美康医用電子有限公司	中国	検体検査試薬の製造及び販売
⑭ 希森美康香港有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑮ 希森美康医用電子(上海)有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑯ 希森美康電腦技術(上海)有限公司	中国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑰ SYSMEX SAN TUNG CO., LTD.	台湾	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑱ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.	シンガポール	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
⑲ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD	マレーシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑳ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.	インド	検体検査機器、検体検査試薬の製造及び販売
㉑ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉒ MED-ONE CO., LTD.*	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉓ SYSMEX DELPHIC LIMITED	ニュージーランド	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発、販売
㉔ WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED	オーストラリア	オーストラリア、ニュージーランドの企業向け法定福利事務支援をWebサイトにより提供
㉕ PT. SYSMEX INDONESIA	インドネシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売

\*持分法適用会社

# 血液採取不要な 微侵襲血糖自己測定 技術を開発。

採血の痛みがない検査が可能に...

**世**界的に増加傾向にある生活習慣病のひとつ糖尿病。世界の糖尿病の患者数は2000年で約1億7千万人。2030年には約3億7千万人になると予想されています。糖尿病は進行による合併症が起こりやすく、進行を防ぐには、血糖値のきめ細かいコントロールが重要となり、その値を調べるために一日数回指先などから採血し、定期的に測定する必要があります。今回、当社の微侵襲組織液抽出技術と、株式会社東芝の光センシング技術を組み合わせ、採血による痛みをとまなわれない新技術を共同開発し、2005年の市場導入に向けて、実用化を進めます。



写真は試作機です

## 年々増え続ける、生活習慣病 「糖尿病」とは

食生活、運動不足、ストレスなどが要因となって発病する生活習慣病です。糖尿病は自覚症状が少ないため、放置していると神経障害や眼球の網膜に障害をきたす網膜症、腎臓の機能が低下する腎症が起こりやすく、これを三大合併症と呼んでいます。糖尿病の治療は、合併症の発症・進行を予防するため、血糖値のコントロールが必要です。主な治療手段としては、食事療法・運動療法・薬事療法の3つがあり、これらを効果的に行うには、血糖値を定期的に、かつ継続的に測定することが重要です。





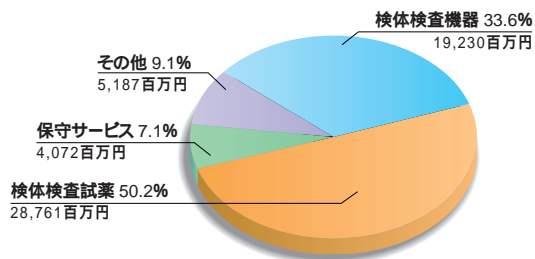
## シスメックスと東芝の共同開発による「微侵襲血糖自己測定技術」とは...

現在、血糖値の測定は、患者自身が指先などを穿刺して血液を採取し、血液中のグルコース量を調べる方法が一般的です。しかし、この方法では痛みをとめない、血液採取を一日に数回行う必要があることから、新しい測定技術の開発が望まれていました。

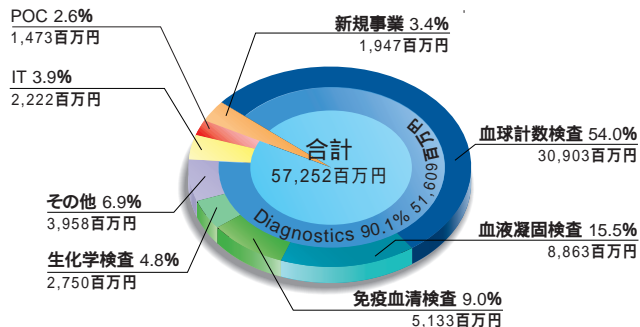
今回、シスメックスと東芝が共同で開発した「微侵襲血糖自己測定技術」は、血液ではなく組織液を採取し、その中のグルコース量を測定するため、採血の必要がありません。当社は痛みのともなわない安定した組織液の採取技術の開発を担当。東芝は採取した組織液中に含まれる微量のグルコース量を高精度に測定するバイオセンサーチップ、測定器本体の開発を担当します。この新しい測定技術により、患者の負担を軽減する、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目指します。

今後もシスメックスは、人々の“クオリティ・オブ・ライフ”の向上に貢献するため、新たな技術開発に取り組みます。

## 品目別販売実績(連結)

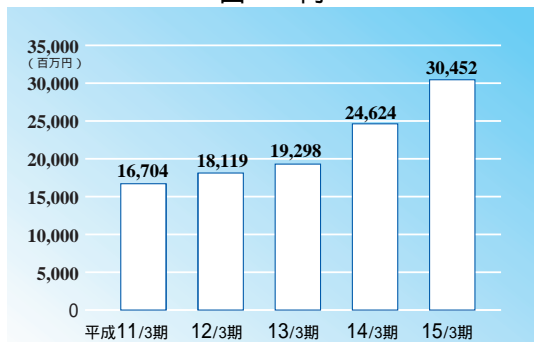


## 事業別売上高(連結)

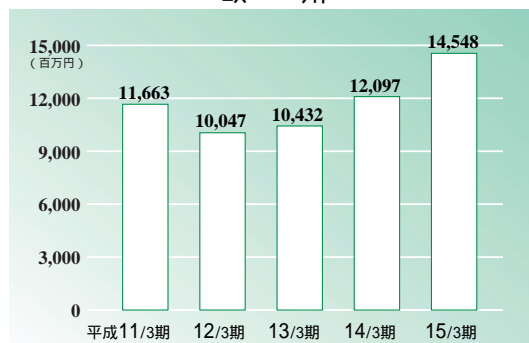


## 地域別売上高

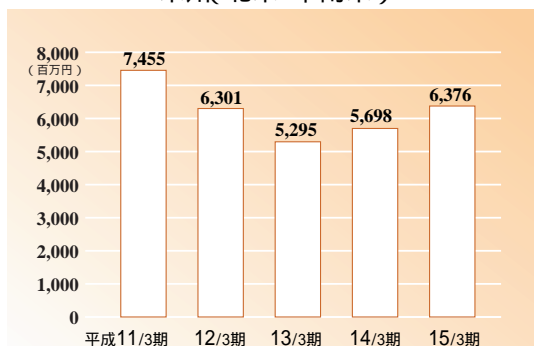
### 国内



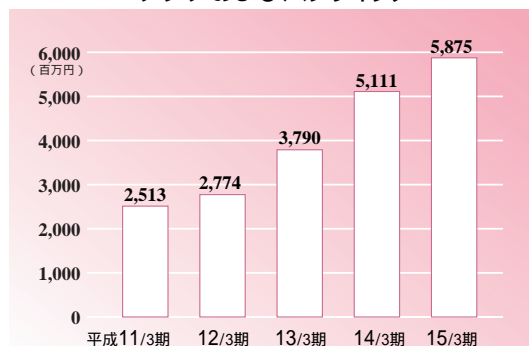
### 欧州



### 米州(北米・中南米)



### アジアおよびパシフィック



## 損益計算書

科目	当期		前期	
	連結	単独	連結	単独
売上高	57,252	43,419	47,532	31,679
売上原価	23,867	20,409	19,769	13,656
売上総利益	33,385	23,010	27,762	18,022
販売費及び一般管理費	28,087	19,505	24,345	15,475
営業利益	5,298	3,504	3,417	2,546
営業外収益	565	1,016	1,119	1,594
営業外費用	542	286	507	247
経常利益	5,321	4,234	4,029	3,894
特別利益	49	27	153	13
特別損失	1,023	1,056	1,108	588
税金等調整前当期純利益	4,348	3,204	3,074	3,318
法人税・住民税及び事業税	892	345	2,272	1,789
法人税等調整額	345	131	365	304
少数株主利益	15		140	
当期純利益	3,124	2,727	1,308	1,834
前期繰越利益		886		790
中間配当額		253		230
当期末処分利益		3,361		2,395

### 経常利益(連結)

増収効果に加え、成長が期待されるライフサイエンスへの研究開発投資を積極的に進める一方で、国際試薬株式会社との統合によりコストを削減し、販管費の低減に努めたことにより、連結経常利益は53億21百万円(前期比32.1%増)となりました。

### 売上(連結)

国際試薬株式会社を完全子会社化し、グループの事業構造の再構築を図るとともに、臨床検査におけるトータルソリューションを提供し、多様化するニーズに応えることに努めた結果、国内、海外ともに売上が増加し、円安効果もあり、連結売上高は572億52百万円(前期比20.4%増)となりました。

国内:30,452百万円(前期比23.7%増)  
海外:26,800百万円(前期比17.0%増)

### 当期純利益(連結)

加古川工場増改築による固定資産の廃棄損及び株式市況低迷による保有有価証券の評価損を計上しましたが、国際試薬株式会社の有償減資に伴い税務上の株式譲渡損失とみなし配当が発生したことにより法人税等の負担額が減少し、連結当期純利益は31億24百万円(前期比138.8%増)となりました。

(注)記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 貸借対照表(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成15年3月31日現在	前期 平成14年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	42,865	40,915
固定資産	23,584	25,586
<b>資産合計</b>	<b>66,449</b>	<b>66,501</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	18,803	15,099
固定負債	4,267	9,474
<b>負債合計</b>	<b>23,071</b>	<b>24,574</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>53</b>	<b>6,351</b>
<b>資本の部</b>		
資本金		3,384
資本準備金		5,560
連結剰余金		26,233
その他有価証券評価差額金		91
為替換算調整勘定		310
自己株式		5
<b>資本合計</b>		<b>35,576</b>
資本金	5,509	
資本剰余金	8,736	
利益剰余金	28,784	
その他有価証券評価差額金	91	
為替換算調整勘定	268	
自己株式	64	
<b>資本合計</b>	<b>43,325</b>	
<b>負債・少数株主持分・資本合計</b>	<b>66,449</b>	<b>66,501</b>

### 総資産(連結・単独)

総資産は前期に比べ、単独では約102億円と大幅に増加しました。主な要因は、国際試薬株式会社との株式交換により新株を発行したことによるものです。連結では少数株主持分の減少と相殺されるため微減となりました。この結果、連結株主資本比率は65.2%(前期比11.7ポイント増)と大幅に上昇しました。

## 貸借対照表(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成15年3月31日現在	前期 平成14年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	34,611	25,408
固定資産	30,315	29,255
<b>資産合計</b>	<b>64,927</b>	<b>54,663</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	16,598	8,850
固定負債	2,835	8,675
<b>負債合計</b>	<b>19,433</b>	<b>17,525</b>
<b>資本の部</b>		
資本金		3,384
法定準備金		5,950
剰余金		27,710
株式等評価差額金		91
自己株式		0
<b>資本合計</b>		<b>37,137</b>
資本金	5,509	
資本剰余金	9,667	
利益剰余金	30,266	
株式等評価差額金	115	
自己株式	64	
<b>資本合計</b>	<b>45,494</b>	
<b>負債及び資本合計</b>	<b>64,927</b>	<b>54,663</b>

## キャッシュ・フロー計算書(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成14年4月1日から	前期 平成13年4月1日から
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,604	4,234
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,259	2,111
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,034	568
現金及び現金同等物に係る換算差額	238	289
現金及び現金同等物の増減額	1,071	1,842
現金及び現金同等物の期首残高	9,181	7,338
現金及び現金同等物の期末残高	10,253	9,181



## 連結剰余金計算書

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	前期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで
連結剰余金期首残高		25,480
連結剰余金減少高		
配当金		480
役員賞与		73
(うち監査役賞与)	( )	( 9 )
当期純利益		1,308
連結剰余金期末残高		26,233
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	5,560	
資本剰余金増加高		
株式交換による組入額	3,175	
転換社債の転換による組入額	0	3,175
資本剰余金期末残高	8,736	
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	26,223	
利益剰余金増加高		
当期純利益	3,124	3,124
利益剰余金減少高		
配当金	483	
役員賞与	78	
(うち監査役賞与)	( 10 )	( )
自己株式処分差損	8	
持分法適用会社の減少による剰余金減少高	3	574
利益剰余金期末残高	28,784	

### キャッシュ・フロー(連結)

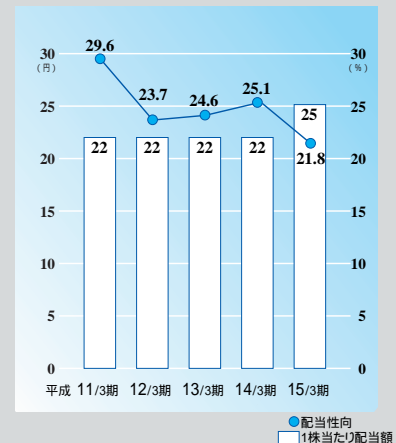
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加、売上債権の減少等により、前期に比べ約14億円増加しました。投資活動に使用した資金は、前期に比べ微増となり、財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入金の返済を進めた結果、前期に比べ約15億円減少しました。この結果、現金及び現金同等物は前期に比べ約11億円増加しました。

## 利益処分(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	前期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで
当期末処分利益	3,361	2,395
利益処分分額	2,403	1,508
配当金	322	230
1株につき普通配当11円 記念配当3円		1株につき普通配当11円
役員賞与	81	78
(うち監査役賞与)	( 10 )	( 10 )
別途積立金	2,000	1,200
次期繰越利益	957	886

(注) 1. 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。  
2. 当期は1株につき11円の中間配当を実施いたしました。

配当性向 / 1株当たり配当額



### 35周年記念配当

#### 【利益配分の基本方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つと位置づけており、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

#### 【当期の配当決定に当たっての考え方】

当期の利益配当金につきましては、期末配当として普通配当11円に当社創立35周年記念配当3円を加え、合計14円とし、通期の配当合計は1株につき25円となります。

## 株式の状況

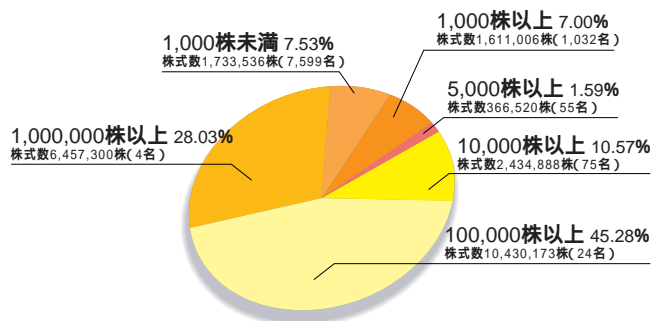
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

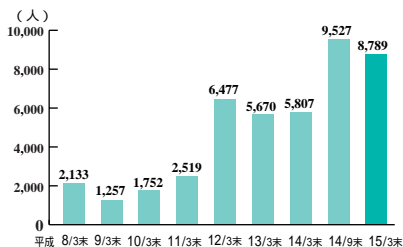
発行済株式総数

23,033,423株

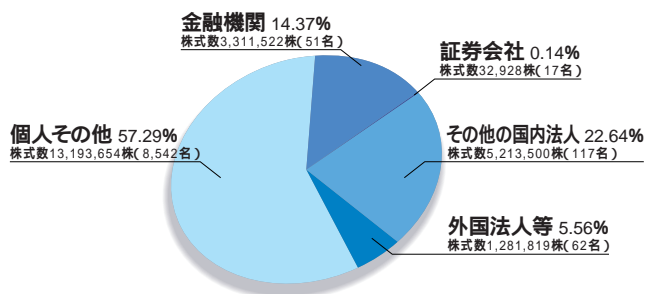
所有数別分布状況



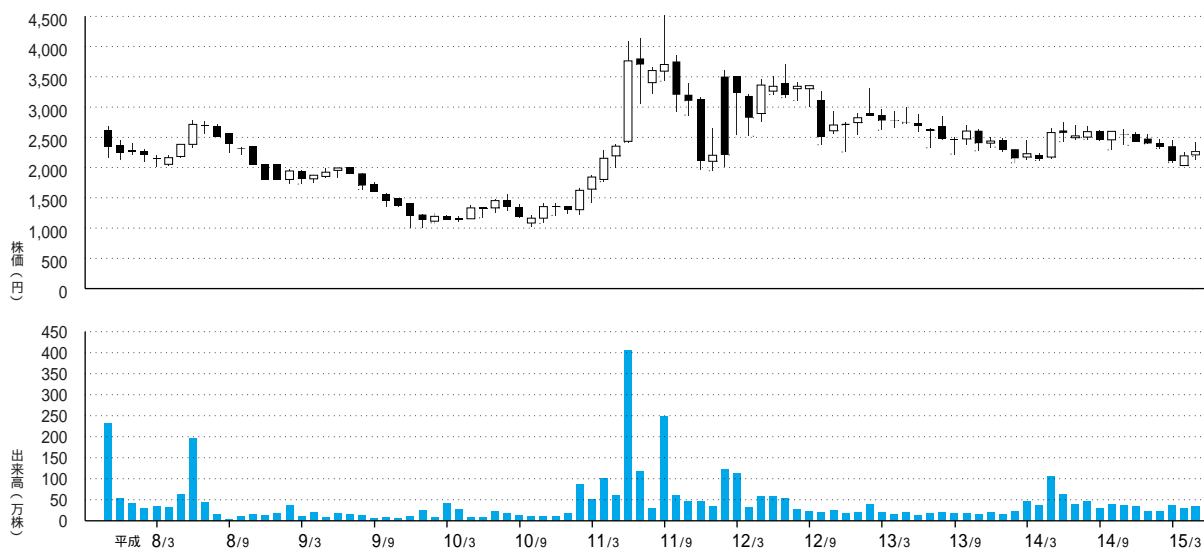
株主数の推移 (人)



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



## 株主メモ

決算期日 3月31日  
 定時株主総会 6月  
 基準日  
 定時株主総会 3月31日  
 利益配当金 3月31日  
 中間配当金 9月30日  
 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。  
 公告掲載新聞 日本経済新聞  
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部  
 大阪証券取引所市場第1部  
 証券コード 6869  
 1単元の株式の数 100株

**株式事務**  
 名義書換代理人 〒100-8212東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱信託銀行株式会社  
**同事務取扱場所** 〒100-8212東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先、電話照会先) 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号  
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)  
**同取次所** 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

### お知らせ

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができますので、名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
- 単元未満株式の買増制度を導入いたしましたので、詳しくは名義書換代理人にお問い合わせください。
- 名義書換代理人住所および同事務取扱場所は、平成15年5月6日に上記に移転いたしました。

## 会社概要

**商号** シスメックス株式会社  
 SYSMEX CORPORATION  
 ('98年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)  
**設立年月日** 昭和43年2月20日  
**資本金** 55億921万円  
**従業員数** 1,106名  
 上記の従業員数には関係会社への出向者238名および嘱託、パートタイマー240名は含んでおりません。  
**主な事業の内容** 臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに  
 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入  
**主な事業所**  
**本社** 〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号  
 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524  
**テクノセンター**  
 仙台支店 営業所  
 北関東支店 札幌、盛岡、長野、新潟、  
 東京支店 千葉、横浜、静岡、金沢、  
 名古屋支店 京都、神戸、高松、岡山、  
 大阪支店 鹿児島  
 広島支店  
 福岡支店

**主な関係会社**  
 国際試薬株式会社  
 メディカ株式会社  
 トーアメディカル株式会社  
 シスメックス物流株式会社  
 株式会社アル・エー・システムズ  
 SYSMEX CORPORATION OF AMERICA(アメリカ)  
 SYSMEX REAGENTS AMERICA,INC.(アメリカ)  
 SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA,INC.(アメリカ)  
 SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル)  
 SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ)  
 SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)  
 WELLTEC GMBH(ドイツ)  
 SYSMEX UK LIMITED(イギリス)  
 SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)  
 SYSMEX MOLIS S.A.(ベルギー)  
 SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス)  
 SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA,S.R.O.(スロバキア)  
 済南希森美康医用電子有限公司(中国)  
 希森美康香港有限公司(中国)  
 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)  
 希森美康電脳技術(上海)有限公司(中国)  
 SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾)  
 SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール)  
 SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD(マレーシア)  
 SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド)  
 SYSMEX (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)  
 MED-ONE CO.,LTD.(タイ)  
 SYSMEX DELPHIC LIMITED(ニュージーランド)  
 WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED(オーストラリア)  
 PT. SYSMEX INDONESIA(インドネシア)

## 役員のご紹介

取締役社長 (代表取締役) ... <b>家次 恒</b>	取締役 ... <b>日置 栄一</b>	取締役 ... <b>山本 博</b>	常勤監査役 ... <b>明田 光弘</b>
専務取締役 ... <b>雪本 賢一</b>	取締役 ... <b>中谷 正</b>	取締役 ... <b>中島 幸男</b>	常勤監査役 ... <b>岩田 豊太郎</b>
常務取締役 ... <b>和歌 光雄</b>	取締役 ... <b>林 正好</b>	取締役 ... <b>岩崎 為雄</b>	監査役 ... <b>石田 義曉</b>
	取締役 ... <b>大東 重則</b>	取締役 ... <b>田村 幸嗣</b>	

# BUSINESS FIELD

私たちシスメックスは、血液や尿などを調べる「ダイアグノスティックス( 検体検査 )」の分野を  
 事業領域とし、その検査に必要な機器や試薬はもちろん、  
 検査情報システムやサービス&サポートまでを総合的にお届けしています。  
 さらに、これらの技術、ノウハウを発展させ、POC検査 やITを活用した検査情報の一元化による  
 検査の効率化、ネットワーク活用による病診連携などの分野にも事業を展開しています。  
 同時に、病気の予防やがんの早期発見などの領域にも挑み、新たなコアテクノロジーの創造にも努め、  
 ヘルスケアテストングの領域に事業を拡大し、豊かな健康社会づくりの一端を担ってまいります。  
 また、ダイアグノスティックス分野で培ってきた技術を活用した  
 新しい事業領域として、工業分野、スポーツ分野などにも進出しています。  
 POC検査( ポイント・オブ・ケア・テストング )...病院の手術室や集中治療室、クリニックなどの患者のすぐそばで迅速に行う検査



## テクノロジーで、生命の謎を解く。

複雑にからみあう生命の謎も、人類が手にした  
 いくつかの鍵で解き明かされようとしています。  
 シスメックスもまた、ヘルスケアテストングの  
 領域でその謎を見つめ、独自のテクノロジー  
 でさまざまな課題を解いていきます。

## ヘルスケアテストングの可能性に挑む。

2003年より新しくビジュアル / キャッチコピーを設定し、シスメックスの広告・広報活動に展開しています。